

スギカミキリ被害の分布と早期発見の要点

1 研究のねらい

スギカミキリの被害防止には、早期発見と予防が最も大切であることから、被害の初期段階での効率的な発見方法、及び樹皮上に現れた被害状態から幹内部の変色・腐朽の状態を推定する方法を明らかにする。

様々な形に変化すること、樹皮上の被害と幹内部の被害状態との関連が解明された。

以上の結果、下表に示したことに留意すれば被害を効率的に発見できること及び立木あるいは丸太の状態から幹内部の被害状態を推定できることが明らかとなった。

2 研究方法と結果

県内各地のスギ林約 400 箇所を対象に、林の状態、樹皮上の被害状態と被害率、幹内部の被害状態等を調査した。

その結果、県内の被害分布、被害林齢、被害状態が食害直後から 10 年以上にわたって

3 成果の活用

樹皮上の被害状態及び幹内部被害との関連については、カラー写真による手引書を印刷配布した。これによって、被害の早期発見、被害材の利用価値の判断が立木あるいは丸太段階で可能となった。

被害林齢	5年生頃から侵入、10～20年生頃増加、15～30年生頃被害最盛期となる。
発生地域	県南の内陸・沿岸で多く、県北地方で少ない。同一林内で沢沿いに多い。
被害部位	被害は根元に多い。
被害状態 (樹皮)	(初期) ヤニ漏出、横筋、(食害期) 縦の亀裂、楕円形の脱出孔、(食害後) 縦あるいはジグザグの筋、陥没、巻き込み、隆起、材部の露出・腐朽など、カミキリ食害後 10 年以上にもわたって様々に変化する。
(幹内部)	変色・腐朽し、回復することはない。樹皮上に現れた被害の状況から推定できる。

成虫



脱出孔



ジグザグの食痕



古くなった食痕



(担当 森林資源部 専門研究員 高橋 健太郎)

連絡先

028-3623 岩手県紫波郡矢巾町大字煙山第三地割字清水 560-11 TEL 019-697-1536
 岩手県林業技術センター FAX 019-697-1410
 ホームページアドレス <http://www.pref.iwate.jp/~hp1017/>